

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

東京都 武蔵野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Aa	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家賃料金(円)
-	66.77	100.00	99.82	1,199

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
148,025	10.98	13,481.33
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
148,300	10.73	13,821.06

## グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和3年度全国平均

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は100%を超え、②累積欠損金比率は0%であることから、単年度の事業収支は黒字となっていますが、今後の使用料収入の動向に注視しつつ、健全な経営を目指していきます。

③流動比率は流動負債の減少により、100%を超え、短期的な債務への支払能力を確保していると言えます。

④企業債残高対事業規模比率は、平成27年度から企業債の起債抑制を行っているため、類似団体の平均値を大きく下回っており、企業債が財政に与える影響は小さいと言えます。

⑤経費回収率は污水处理費の増加により前年度より下降しているが100%を超えており、必要な経費を使用料収入で賄うことができています。

⑥污水处理原価は類似団体の平均値を下回っており、効率的な污水处理が行われています。

⑧水洗化率、普及率ともに100%を達成し、污水处理が適切に行われています。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は類似団体の平均値より低い水準となっていますが、これは法適用時に過去の減価償却累計額相当分を控除しているためであり、実際には指標以上に老朽化が進んでいます。

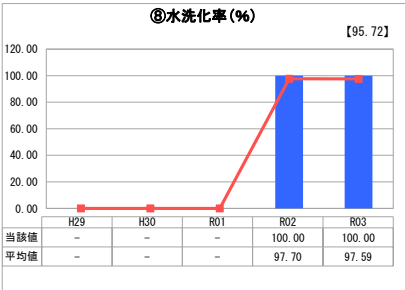
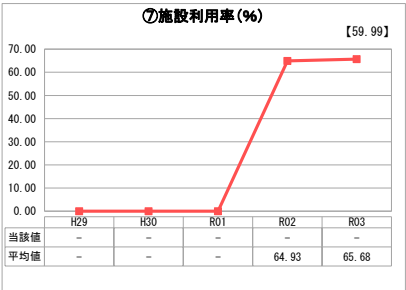
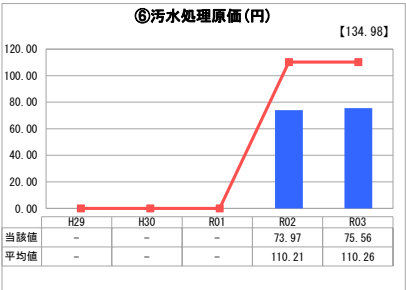
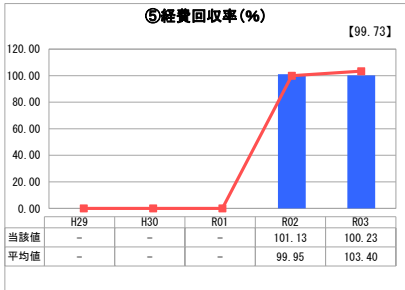
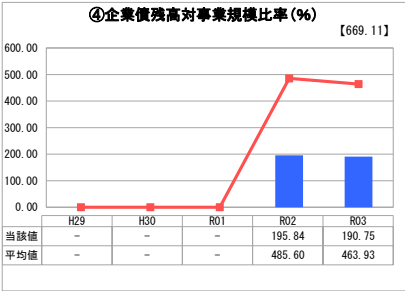
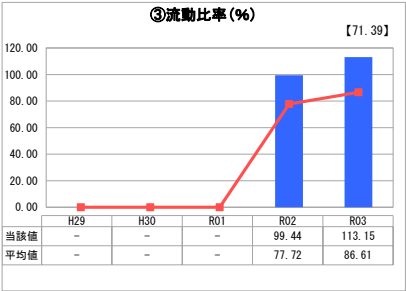
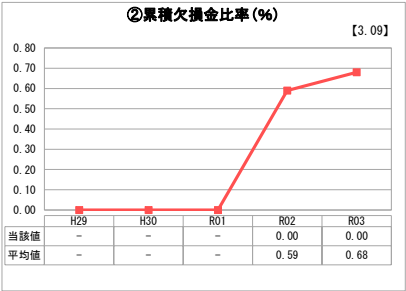
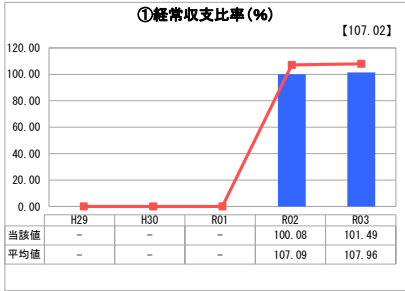
②管渠老朽化率は、初期に布設された管渠は法定耐用年数を経過しており、類似団体の平均値と比較して高い水準となっています。今後も多くの管渠が更新時期を迎え、数値は上昇していく見込みです。

③管渠改善率は類似団体の平均値と比較して、やや低い水準となっていますが、今後多くの管渠が更新時期を迎えることが見込まれているため、ストックマネジメント計画に基づく計画的な更新を進めていきます。

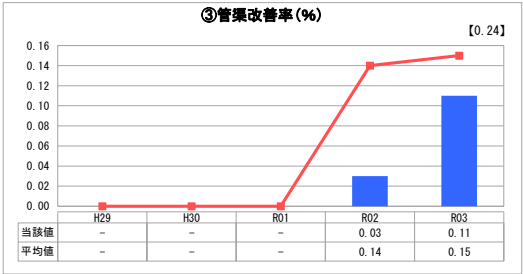
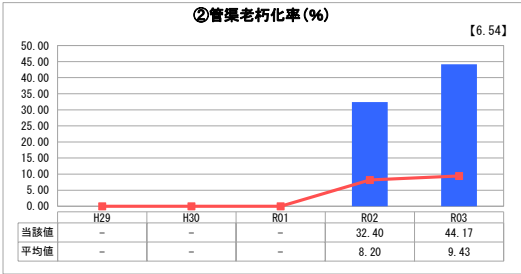
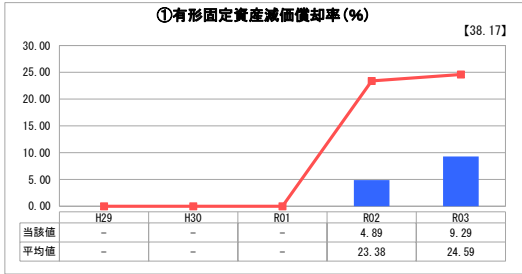
## 全体総括

令和3年度決算では、各指標が示すとおり、概ね健全であると考えています。  
ただし、当市は下水道の整備時期が早かったこともあり、今後も施設の更新等で建設事業費が大幅に増加する見込みです。限られた財源の中で着実な対応を行い、継続的にサービスを提供していくために、「武蔵野市下水道総合計画（2018）」を策定し、下水道全体を総合的に捉えて、重点的かつ計画的に事業を推進しています。また、ストックマネジメント計画に基づき、予防保全型維持管理による施設全体の延命化や改築時期の平準化などを図り、今後も下水道使用料の定期的な見直し、起債抑制等経営基盤を強化する取り組みを進めています。

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。